

## 胃のつかえ

講師： 路 京華 老師

レポート：岸奈治郎(館林厚生病院 漢方内科)

開催日：2014年4月6日

【症例】 57歳男性

【主訴】

- 1) 胃脘痞悶
- 2) めまい、高血圧 30年間
- 3) 睡眠が浅い、易覚醒。多夢

【現病歴】

9ヶ月前からみぞおちの痞え感が出現した。

7ヶ月前に近医受診し、胃カメラで糜爛を伴う胃炎を認め、腹部超音波で胆のう炎、右甲状腺結節を認め、治療をした。

しかしながらここ2ヶ月で胃脘痞悶が増悪しているため、治療を求めて受診した。

【既往歴】

高血圧 30年間

前年4月に脳血栓。特に後遺症認めず。

前年10月 胃穿孔あり手術治療。

頸椎4～5、腰椎5、6椎間板ヘルニア。手術治療。

【現症】

食欲低下。1/3程度。胃が動かない感じで、ちょっと食べ過ぎると腹満出現。胃が空くと腸鳴しておながら良く出る。腹満はしゃっくりが出ると楽になる。

体重減少 10kg/1年間

心煩(胸部がほてってむかむかすること)、急躁(苛立ち落ち着かない様子)になることがある。

体が疲れてだるく感じる。膝がだるく痛いので、歩いていると途中で座って休みたくなる。

めまい「綿を踏むような感じ」

睡眠薬を飲んでいることもあり入眠はよいが、眠りが浅くて1時間おきに目が覚める。多夢。夜間の口・咽喉頭・舌の乾燥が気になる。夜間尿3回。

特に誘引無く恐怖感や不安感が出ることがある。

排便・最初は硬いがその後軟便である。

血圧 170~180/110mmHg だったが、内服治療で 140/100mmHg 程度。

#### 【診察所見】

舌質：淡紅 白苔：薄白微黄

脈：弦細小緊。上魚際

#### 【考察】

「食欲低下。1/3 程度。胃が動かない感じで、ちょっと食べ過ぎると腹満出現。胃が空くと腸鳴しておならが良く出る。腹満はしゃっくりが出ると楽になる。」

飲食に関わることは脾胃の問題が多いです。胃は降濁、脾は昇精を司りますから、胃気は降るのを良しとします。下がらないといけないものがみぞおちに滞ってしまうことで、胃脘痞悶や痛みが出現したと考えられます。「不通則痛」の法則ですね。しゃっくりをすると滞っていた胃気が出て行くので楽になるのでしょうか。

今回の症状では胃気が下がらずに上逆していることが一番の問題のようです。一体どうして胃気が上がってしまったのでしょうか？

#### 「体重減少 10kg/1 年間」

体重減少では物質の減少が考えられます。つまり「血」「津液」「陰」などが減っていることが考えられますが、どれが減っているのかはここまででは分かりません。

「心煩(胸部がほてってむかむかすること)、急躁(苛立ち落ち着かない様子)になることがある。」

上焦の熱。五臓六腑でいうと「心」もしくは「肝」の症状ということで良いと思います。特に熱が原因で起こる症状と思われませんが、熱がどこから来たのかはまだ分かりません。

「体が疲れてだるく感じる。膝がだるく痛いので、歩いていると途中で座って休みたくなる。」

これらの症状もいろいろな原因が考えられます。だるく感じるのは気虚のことが多いですし、膝がだるく痛いのは腎による症状のようです。腎に問題がある可能性が高いと思われます。特に腎虚による症状が考えやすいです。

#### 「めまい (綿を踏むような感じ)」

この症状は元陽、陽気が上にあがってしまった症状であると路先生から解説がありました。

陽は腎に蔵されており下焦にあるのが正常です。その陽気が上にあがってしまい上虚下実の状態が上が実になってしまったために起こる症状です。

胃気が上がってしまっていると上記しましたが、それは陽気が上にあがっていく際に胃気を挟んで上がっているため（陽気につられて胃気が上がっている）と考えられます。

「睡眠薬を飲んでいることもあり入眠はよいが、眠りが浅くて 1 時間おきに目が覚める。多夢。」

睡眠時は魂が魄となり肝に入ります。肝に蓄えられている血により滋養されることで十分な睡眠を得ることが出来ます。また肝気が落ち着いていなければ魂魄の安静も得られません。眠りが浅く多夢である、悪夢を見るということは、魂魄が養われないために起こりますから、肝気が高ぶってしまい落ち着かなかったり、肝血不足による症状と考えられます。

「夜間の口・咽喉頭・舌の乾燥が気になる。夜間尿 3 回。」

夜は陰の時間です。この時間に口渇や乾燥を訴える場合は陰虚を考えます。特に夜間尿があるとすることは腎と関わる人が多いので、腎陰虚の可能性が高いです。

「特に誘引無く恐怖感や不安感が出現することがある。」

『中医学の基礎』（監修・平馬直樹・兵頭明・路京華・劉公望）の P.126 七情の解説では「恐」腎気不固により、気が下に陥る。「驚」腎が志を蔵さず、神のよりどころが無くなる、とあります。この症状は前出の状態から、腎による症状と考えるのが分かりやすいかと思えます。

「排便・最初は硬いがその後軟便である。」

脾虚で見られる症状です。

「血圧 170~180/110mmHg だったが、内服治療で 140/100mmHg 程度。」

血圧の原因はいろいろ考えられますが、高かったということは上記から、肝、心に異常があった可能性が考えられます。

【病性】 裏熱虚実挟雑

【病勢】 正虚邪実

【病位】 胃 肝 腎

【病邪】 気滞

【弁証】 胃虚痞塞 気鬱湿阻 陽亢神浮 上盛下虚

【治法】 散脾和胃 化湿实脾 理气除满 熄风定眩

【処方】

旋覆花 10 包	清半夏 9	蘇葉 6	蘇梗 9	
青皮 9	陳皮 9	炒白朮 10	竹筴 9	柴胡 9
杏仁 10	薏苡仁 20	丹参 10	白檀香 6	
縮砂仁 4	仏手 9	明天麻 12	珍珠母 20 (先煎)	

### 【処方解説】

この症例では一番の訴えは胃の症状です。

胃が動かなくて飲食が滞ると、もともと空虚な胃は実になります。実のまま胃気が下がらないと胃が虚してしまい、より一層胃気が動きません。一層気が動かないと、ますます胃は食積で実してしまい、胃が虚するという悪循環に陥ってしまいます。

胃気降濁・脾気昇精を助けるのは肝気の疏泄作用です。これを木疏土と言いますが、この症例ではこれらの働きがかみ合っておらず、しかも元陽が上にあがってしまう状態が起こっており、肝気もそれにつられて疏泄作用が邪魔されています。気が上がった上半身では頭や顔、精神面に異常が起こり、めまいや精神不安、睡眠障害が出現していると癌が得られ、虚になった下半身では膝が痛かったり夜間尿が出現したりと言う症状が見られます。治療のはじめに念頭に置かなければいけないのは先ず胃です。胃気をめぐらせなければいけません。

旋覆花は胃気を降ろす代表的な生薬です。特に旋覆花代赭石湯などが代表的です。今回の病態では代赭石のような重たい薬で胃気を降ろそうとすると反発し、余計に胃気が上逆してしまうため、代赭石、滑石、石膏などの薬は使えない病態です。

方中の白朮は良く健脾で使われますが、ここでは「実脾」の目的と言われています。人参や黄耆など補う薬を思い浮かべますが、胃が虚した状態に用いると「甘者会人満」(甘薬は腹満する)気が壅滞してしまい、今回の治療の気を巡らせるという目的に合いません。ですので、白朮を用いるのが良いようです。

柴胡・青皮・陳皮は気を巡らせる代表的な薬です。

杏仁・薏苡仁は白豆蔻も入れると「三仁湯」の主な方剤です。丹参・白檀・縮砂は「丹参飲」の組み合わせです。両方とも芳香で胃気を動かす目的であることが読み取れます。

蘇葉は胃気を緩めて下に降ろし気をめぐらせます。蘇梗(そこう・紫蘇の茎の部分)も配合されていますが、こちらのほうが気を巡らせる作用が強く、今回の症状には適しているため含まれています。

天麻・珍珠母は鎮肝熄風と安神作用の目的で組み合わせられています。今、胃気が上逆してしまっていますが、それは肝気につられて上逆しているからです。木疏土(脾胃の気が上昇・下降するのは肝の疎泄作用によるところが大きい)であり、睡眠障害や高血圧などの肝気の異常が出現しているので、胃気を下げるには肝気も下げなければいけないからです。

### 【代用できる処方】

● **旋覆花代赭石湯** (傷寒論)

旋覆花 人参 生姜 代赭石 炙甘草 半夏 大棗

効能：降逆化痰・益气和胃

主治：胃虚痰阻・胃気上逆

胃気虚と痰濁内阻により、胃気が和降出来なくなり上逆した状態。

「傷寒汗を發し、もしくは吐し、もしくは下し、解して後、心下痞鞭し、噫気除かざるものは、旋覆花代赭湯これを主る」

● **半夏厚朴湯** (金匱要略)

半夏 厚朴 茯苓 生姜 紫蘇葉

効能：行気解鬱・降濁化痰

主治：痰気鬱結

cf.紫蘇散 (聖恵方) ~半夏厚朴湯合柴胡・枳殻・檳榔子・肉桂

● **温胆湯**

これらに天麻、竜骨牡蠣などを付け加えても良い。

~~~~~

(症例の続き)

7日分を服用した。

【現症】

胃の停滞や痞悶感は無くなり胃脘部の脹満はだいぶ取れた。朝起きた時の胃脘部の空虚感があり、午後になると胃脘部を締めつける緊張感がある。まだ眩暈と下肢のだるい感じがある。睡眠は11時に寝られ、深夜の3時に目が醒めるが、再度寝られるようになった。夜間尿は1回となった。

【所見】

脈：脉弦滑濡

舌：質 淡紅、苔 薄白微膩

【弁証】胃虚痞塞、気鬱湿阻、上盛下虚、脾腎不足

【治法】散痞行気、和胃実脾、益腎固元、鎮養心神

【処方】

|        |        |           |        |
|--------|--------|-----------|--------|
| 旋腹花 9  | 清半夏 9  | 藿梗 9      | 蘇梗 9   |
| 柴胡 9   | 青陳皮各 9 | 炒枳実 9     | 炒白朮 9  |
| 丹参 10  | 白檀香 6  | 縮砂仁 4     | 仏手 9   |
| 鶏内金 9  | 薏苡仁 20 | 炒杜仲 9     | 桑寄生 12 |
| 肉蓯蓉 10 | 炒枣仁 12 | 珍珠母 20 先煎 |        |

【考察】

睡眠が改善してきたことから陽気が上亢した症状は改善してきたと読み取れる。今ある症状としては胃の症状と、夜間尿や下肢のだるさなど腎の症状が主である。治法としては胃気を巡らせる、腎気を補う治療をしなければいけない。

胃気をめぐらせるには藿梗・蘇梗など軽くて香りが強い芳香作用の生薬を使う。また気を下げるには下が詰まっていると上の気が降りられないので、下の気を下げるために枳実を使っている。補腎には杜仲・桑寄生・肉蓯蓉。

- ・ 杜仲：甘 微辛 温 肝腎

補肝腎・強健筋骨 腎虚による腰痛、膝痛、筋無力

補腎安胎 肝腎を補い妊娠を継続させる

- ・ 桑寄生：苦平 肝腎 ヤドリギの帯葉茎枝

補肝腎・祛風湿・強筋腰部

補腎安胎

- ・ 肉蓯蓉（にくじゅよう）：甘温 腎 大腸

温腎壯陽 腎陽を補い先天の気を盛んにする。精血を補う。潤性のため温性だが乾燥させず傷陰しにくい。

潤腸通便

● **独活寄生湯** <備急千金要方・孫思邈>

独活 桑寄生 杜仲 牛膝 肉桂 ～補肝腎

細辛 秦艽（じんぎょう） 茯苓 防風 ～祛風湿

人参 甘草 ～補脾益気

当帰 白芍 熟地黄 川芎 ～補血

効能：祛風湿・止痺痛・益肝腎・補気血

主治：痺証日久・肝腎不足・気血両虚

虚に乗じて風寒湿邪が侵入し、長らく経絡に阻滞して肝腎不足・気血両虚になった状態。

~~~~~

（症例の続き）

前回受診から 23 日

【現症】

食欲は戻り、以前とほぼ同じくらいとなった。但し食後に胃脘部からよく音が出る。胃の支える感じはほんのわずかで、胸悶不快感、ため息のような感じである。

睡眠はずいぶん良くなったが、まだ夢が多い。夜間尿 2～3 回。

恐怖が軽くなって、眩暈、下肢のだるく、口腔粘膜は荒れやすく（上火）、頭部に出来物が出る。

脈：弦細滑

舌：質、淡紅 苔、薄白

【弁証】胃虚失和、気滞胸膈、鬱熱内壅、下虚陽浮

【治法】散痞行滞、開達胸膈、昇清透熱、益腎潜陽

【処方】

旋復花 9	清半夏 9	柴胡 9	石菖蒲 12
青皮・陳皮各 9	丹参 12	白檀香 6	縮砂仁 4
鶏内金 9	葛根 12	炒枣仁 15	天麻 12
肉蓯蓉 10	炒杜仲 9	山茱萸 10	金銀花 10
竜骨牡蠣各 20			

【考察】

胃の症状はほとんど良くなった。わずかに気が滞り胸悶不快感がある程度のような。胃に関わる薬は少なくするが、石菖蒲を使って痰を除き気の塞がりを開くのが良い。

夢が多く夜間尿もあるため、引き続き肝腎不足を補っていく。

口腔粘膜が荒れて、頭にできものが出来ているのは熱が上に昇っているためである。陽気が増しているからなので冷ましたい。冷やす薬を使いたいが、未だ脾胃の症状があるので、葛根・金銀花などの軽い（効き目が軽いのではなくて浮であるという意味）清熱解毒薬を使って頭に効かせる工夫をするべきである。

~~~~~

（症例の続き）

前回受診から約1ヵ月後

【現症】

胃脘部の症状は、食べ過ぎや硬いものを食べなければ何も不快感はない。便は1日に1回でちょっと柔らかい。

頭がスッキリして、眩暈はほとんど無くなったが、午後4～5時頃わずかに感じることもある。

睡眠が良くなった。

血圧が安定（120/70mmHg）した。

但し1年間で10kg減少した体重がまだ回復していない。

下肢のだるさと朝の口乾がある。

舌：舌質、淡紅 舌苔、薄白水滑

【弁証】胃虚失和、気滞胸膈、鬱熱内壅、下虚陽浮

【治法】補虚和胃、清熱寛胸、昇清降濁、益腎斂陽

【処方】

|         |          |         |        |
|---------|----------|---------|--------|
| 旋復花 9   | 太子参 8    | 清半夏 9   | 石菖蒲 12 |
| 柴胡 6    | 丹参 12    | 檀香 5    | 縮砂仁 4  |
| 茵陳 9    | 青皮・陳皮各 9 | 鶏内金 9   | 葛根 12  |
| 炒酸棗仁 15 | 肉蓯蓉 10   | 山梔子 1.5 | 天麻 12  |

竜骨牡蠣各 20 先煎

【考察】

だいぶ胃の症状は良くなってきている。ここまで来ると、去邪よりも扶正に重きを置いて治療をするべきなので、胃を守る薬を多く使っている。

それは山梔子を使うためでもある。山梔子は胃の熱を散らす意味で使われているが、もともと胃が虚している状態で受診しているので、山梔子は冷やしてしまうので使いにくい。今はある程度回復し、胃を補う薬を加えることで山梔子を使っても大丈夫な状態だと考えている。

### ●**旋覆花代赭石湯**＜傷寒論＞

「傷寒発汗、若吐、若下、解後 心下痞硬、噎気不除者、旋覆花代赭湯主之」

・傷寒汗を發し、若しくは吐し、若しくは下し、解して後、心下痞硬、噎気除かざるもの、旋覆花代赭石湯これを主る。

・傷寒の治療で發したのよかつたけれども、まだ治り切らなかつたのか、吐法、下法をして傷寒は去つたけれども心下痞硬が出現してげっぷが止まない場合には旋覆花代赭石湯を用いる。

旋覆花 人参 生姜 代赭石 炙甘草 半夏 大棗

この処方傷寒論太陽病、下に出てきます。傷寒が裏に向かつて進み結胸となつた時に使われる大陷胸湯、小陷胸湯などが述べられた後、傷寒が裏に向かつて進み心下痞になつた話が続きます。半夏瀉心湯から始まり大黃黃連瀉心湯、附子瀉心湯、生姜瀉心湯、甘草瀉心湯の後に出てきます。

げっぷが出て心下痞硬があるのは気が詰まっているだけではなく、痰飲の内停によると考えられます。しかもげっぷとして症状が出ている気逆は、吐法や下法で胃が虚したところに相克の肝氣が乗ることにも由縁しています。

・旋覆花 苦鹹 微温 肺胃

降氣化痰：廢棄を降ろし化痰し津液を巡らせる

降氣止嘔：胃氣を降ろし嘔吐を停める。

・代赭石 苦 寒 肝心

天然の赤鉄鉱で酸化第二鉄。心・肝・肺・血に作用する重沈降逆薬。



平肝潜陽・降逆止嘔・降逆平喘・降気涼血・止血。

生姜と代赭石の比率が大切なようです。生姜を沢山入れて建脾止嘔を強くします。代赭石を多く入れてしまうと下に沈みすぎて旋覆花と協調出来ないようです。